

「1点でも高い点数を…」教え方、男女で違う?算数嫌いをつくるのは

有料記事

編集委員・岡崎明子 2025年2月8日 7時00分

コメントプラス

三浦麻子さんのコメント



試験会場に向かう受験生=2025年2月1日午前7時16分、東京都世田谷区、関田航撮影

記者コラム「多事奏論」編集委員・岡崎明子

数日前まで、中学受験生の親だった。

中学受験は「算数で合否が決まる」と言われる。解法の暗記では太刀打ちできず、習得に時間がかかる上、1問あたりの配点が大きいため点差が開きやすいなど、さまざまな理由を耳にした。

「つるかめ算」「ニュートン算」といった特殊な解法を始め、親が教えられるレベルはとうに超え、我が家も最後まで苦しんだ。だがそれ以上に悩まされたのは、無意識に植えつけられかねないジェンダーバイアスだった。

「××女子中の算数は男子校なみに難しい」「女子は立体図形が苦手だから」など、「呪い」としか思えない言葉が講師の口から出るたびに、「娘の前ではご勘弁を！」と心の中で叫んでいた。

算数の能力に男女差がないことは、さまざまなデータが示している。一方で模試の結果をみると、男子の方が平均点が高く、その差は学年が上がるにつれ開いていった。呪いの言葉の刻印はかくも深いのか。ずっとモヤモヤしていた。

金沢大教授で学校教育を専門とする米田力生さんが、教員志望の男子学生と女子学生とでは数学の教え方に違いがあると気づいたのは、数年前のことだった。

「模擬授業をやらせてみると、男子学生の多くはいきなり定理など抽象概念から入ります。一方で女子学生は、ほとんどが身近な具体例を用いながらストーリーとして説明します。どうすれば生

徒たちがその分野に興味や関心を持つか、その導入方法がまったく違うのです」

米田さん自身、最初は「そこまで具体例に落とし込まなくても」と女子学生の教え方に違和感を覚えたそう。しかし次第に「彼女たちは、本当はこういう授業を受けたかったのだ」と気づいた。

数学教師を目指すのだから、米田さんのもとに集まる女子学生は数学が得意だった人が多い。それでも話を聞いてみると、ほとんどが抽象的な内容の単元で挫折した経験を持っていた。その定理や数式が実際に何に使われているのかを独自に調べ、何とか関心を持とうと努力をした子も少なくないという。

「今の学校の授業で要求されるのは『いかに試験で点数を取るか』。抽象概念をどんどん教え、ゲーム感覚で解いていく『男子型』授業の方が効率的です。でもそういう教え方一辺倒だと、数学に関心が持てない生徒もいる。これは問題だと思っています」

理系に進む女性が少ない理由に、ロールモデルの少なさやジェンダーバイアスが影響していることが指摘されてきた。だが米田さんの話を聞きながら思った。「教え方」も重要ではないか。

昨年末に公表された国際調査では、「算数・数学の勉強は楽しい」と回答した女子の割合は男子より10ポイント以上低く、平均点も男子より低かった。

脳の働きは性差より個人差の方が大きいとされるから、一律、男女で教え方を変えるべきだとは思わない。ただ受験競争が過熱する中、1点でも高い点数を取るための教え方が「是」とされる価値観が変わらなければ、数学に苦手意識を持つ生徒は減らないのではないか。

ある中学校の先生が以前、共学と別学とでは教え方も微妙に異なると話していた。共学より女子校の方が理系への進学熱が高いとされる背景には、こんな要因もあるのかもしれない。

全国の新中学1年生が数学の楽しさを教えてくれる先生に出会えますように。数学に挫折した大人として、切に願う。

この記事を書いた人



岡崎 明子

編集委員 | イチ推しストーリー編集長

 フォロー

専門・関心分野

医療、生きづらさ、ジェンダー、働き方

 コメントプラス

注目コメント試し読み >



三浦麻子(大阪大学大学院教授＝社会心理学)2025年2月13日11時41分 投稿

【視点】私たちの研究では、算数の問題を抽象的に出題するか人物が登場するストーリー仕立てで出題するか、そのどちらを好むか、あるいは解きやすいと思うかには、比較的頑健な個人差…[続きを読む](#)

朝日新聞のデジタル版に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.